

生活を豊かにする物の製作 取り組みの様子

①ゲストティーチャーを招いた授業（1/8 時間目）



ゲストティーチャーによる説明



ゲストティーチャーの作品

地域でパッチワーク教室を開いているゲストティーチャーを招き、授業を行った。布を通じて世界中の人々と交流をしながら活動をされているという話を聞いたり、作品を見たり、触れたりすることで、生活を豊かにする物の製作に対しての意欲が高まった。

②製作計画について意見交流を行った授業（2/8 時間目）



改善点に関する話し合い

ゲストティーチャーや家族、インターネットや本等から情報を集め、各自で製作計画を立て、その計画表をもとに、グループ内で互いの計画がよりよいものになるように話し合った。

材料・縫い方・手順について『安全・快適・環境に配慮できているか』などの視点から話し合った。

「困ったこと・苦労したこと・教えてほしいこと」について話し合う際には、他の友達の計画についても自身の製作計画と照らし合わせながら考えさせるようにした。そのことで、具体的なアドバイスができるとともに、自らの製作計画についての改善点を見出す機会にもなった。

③生活を豊かにするための物の製作実習（3-7/8 時間目）

日	内容	振り返り
10月30日 火曜日	型紙の準備 ・印付け	できたこと 裁断ができた。 苦労したこと 型紙が取れなかった 次への課題 型紙付けを早く
11月6日 火曜日	裁断・型紙付け ・ポーチにポケット付け	できたこと ポケットができた。 苦労したこと ミシンがうまく使えなかった 次への課題 型紙付けを早く
11月13日 火曜日	ポーチを作る ・型紙付け	できたこと ポーチの型紙とポーチが完成した 苦労したこと なし 次への課題 ポーチと型紙を合わせる

思考の流れが分かる振り返り

自分で立てた製作計画をもとに、製作活動を行い、毎時間振り返りを行うことで思考の流れの可視化を図った。

振り返り活動を行うことで、自分の進度に合わせて、次の時間の作業内容を再検討し、次への課題を明確化し、目的意識を持って課題に取り組むことができた。

また、個々の生徒のつまずきを把握できたことで、具体的な支援にもつながった。

④実践活動の評価・改善

生活を豊かにする物の製作を終えて、これからの製作に活かしたいことを書こう

実際に赤ちゃんに使ってもらったことで、作品の改善点を知ることができた。使い人に、快適に使ってもらうためには、自分で使ってみたり、使う人の身になって考えてみることも重要なんだなと思った。あと、活用した時の事も考え、布の特徴をもっと活かしたいと思った。



実際に使った感想

感想を交流する様子

一度、製作品を持ち帰り、実際に使ってみて気付いた課題を持ち寄って意見交換を行った。

実際に使ってみたことで、「贈った相手に快適に使ってもらうためには、相手の立場に立って考えることが重要だと思った」など、計画時には気付かなかった点に気付くことができた。

また、同じような作品を製作したグループで集まり話し合ったことで、更なる改善点について具体的なアドバイスを出し合う姿が見られた。

製作品（不要になった衣服の活用）



ティッシュケース付きポーチ



しおり付きブックカバー

シャツからティッシュケース付きポーチ

お母さんのために、幼い頃着用していたシャツを用いて、ティッシュケース付きポーチを製作した。

もともとファスナーのついている衣服だったため、その部分をうまく活用し、製作時間の短縮を図った。

シャツ・ジーンズからしおり付きブックカバー

自分のために、幼い頃着用していたシャツとジーンズを用いて、しおり付きのブックカバーを製作した。

シャツのデザイン部分(レース)を活用し、ブックカバーのポイントとなるように工夫をした。また、切りっぱなしでもほつれにくいジーンズの性質を生かし、しおりひもと止めひもに使用した。